

「東京で暮らす部落出身者の想い」

～葛飾区を中心とする連続差別落書き事件を通じて～

多くの人は、“東京には部落差別がない”と思っています。

しかし、実際には、戸籍謄抄本の不正取得と結びついた身元調査や土地差別調査、インターネットを悪用した全国の被差別部落の地名公表など、被差別部落・被差別部落民が見えにくいゆえに、それを暴こうとする差別行為が横行しています。そして、悪質な差別落書きなどが多発しています。一例として、2001年から16年以上にわたり葛飾区を中心に江東区、江戸川区など近隣区にまで広がりながら120ヵ所以上もの差別落書きが発生し、未解決のままです。

なぜ、部落差別(問題)がなくなるのか。それは、部落差別(問題)の現実を”知らない”こと、東京にも被差別部落出身者が暮らしていることを”知らない”ことが、部落差別を引き起こしているように思えます。

本講座では、この事件を発生当初から目の当たりにしてきた部落解放同盟葛飾支部支部長に、被差別部落出身者として東京で暮らすとはどういうことか、普段の日常生活の中では気づきにくい部落差別の現実、被差別当事者の願いに思いを馳せながら、差別を許さない姿勢と行動の大切さを考えます。

日時: 2018年3月27日(火) 19:00～20:30

ゆきひろ

講師: 松島 幸洋さん(部落解放同盟葛飾支部支部長)

会場: 江東区文化センター(江東区東陽4-11-3)

3階第2研修室

参加費: 無料(定員30名、先着順)

【申込方法・問合せ先】

3月15日(木)から電話またはファクスに

- ①氏名(ふりがな)
- ②住所
- ③電話番号 を記入し、

江東区総務部人権推進課へ

☎3647-1164 FAX3647-9556

